

令和 3 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：奨励研究

研究期間：2020～2020

課題番号：20H00725

研究課題名 スマホ依存傾向と協働学習，学校での活動，社会汎用能力との関連

研究代表者

石橋 太加志 (Ishibashi, Takashi)

東京大学・大学院教育学研究科(教育学部)・附属中等教育学校教諭

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 480,000円

研究成果の概要：中学生高校生の中に急速に広まっているスマホは、その多機能さもあり、様々な場面で活用されている。また、スマホゲームも急速に広まり、依存傾向が問題視されている。本研究では依存傾向が中学生高校生の学校での学習にどのような影響があるのかを検討するものである。風間他(2020)の大学生のスマートフォン行動嗜癖尺度原案を用いた結果、中学生と高校生で因子構造が異なることが示唆された。それらは大学生のモノとも異なると考えられた。中学生、高校生のスマホ因子の中には協働学習の効用感因子との間に有意な負の相関や、互惠懸念因子との間に有意な正の相関がみられた。中学生、高校生のスマホ因子のいくつかは性差がみられた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は中学生高校生がスマホ依存に近い傾向にあり、そのため学校での学習に影響しているかどうかを検討した。まず既存の尺度原案から、スマホ依存傾向尺度の作成を試みた。その結果、中学生と高校生は大学生のモノと違うこと、中学生と高校生も異なることが分析の結果明らかとなった。つぎに新学習指導要領で重視されている学校での学習のうち、協働で学ぶことにおいて影響があるかどうかを検討した。その結果、スマホ依存傾向は、協働学習の効用感に有意な負の相関、協働学習の互惠懸念に対して有意な正の相関をとることが分かった。学校での学習に影響がある可能性が示唆されたことは社会的に意義が高いと考えられる。

研究分野：発達心理学

キーワード：スマホ依存傾向 協働学習 中学生 高校生

1．研究の目的

文部科学省(2017)は、子どもたちが未来社会を切り拓くための資質・能力を育成することを重視している。批判的思考力や協働して考える力はその資質・能力の一つである。また、協働学習の認識が学校適応感、批判的思考態度に正の影響があることを示した先行研究(石橋他, 2016)もある。一方で中学生・高校生にスマホの所持・利用が急速に広まっており、この過度利用により、学習や生活姿勢に問題が指摘されている。しかし、協働学習や批判的思考態度とスマホの依存との関連の研究はみられない。本研究の目的は、中学生・高校生のスマホ依存傾向が、生徒の学校において協働で学ぶことにどのような関連があるのかを検討することである。

2．研究成果

風間他(2020)の大学生のスマートフォン行動嗜癖尺度原案を用いた結果、中学生と高校生とでは因子構造が異なることが示唆された。すなわち中学生と高校生ではスマホ依存傾向の内容が異なることが示唆された。また、それらは大学生の行動嗜癖をはかるものとも異なると考えられた。次に、中学生、高校生のスマホ因子の中には協働学習の効用感因子との間に有意な負の相関や、互惠懸念因子との間に有意な正の相関がみられた。中学生、高校生が学校で協働して学ぶことにおいて影響があることが考えられた。

主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 石橋太加志
2. 発表標題 スマホ依存と中学生の数学の学力との関連 - 協働学習を授業に取り入れている中学校への調査から -
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 石橋太加志
2. 発表標題 スマホ依存傾向とアクティブ・ラーニングとの関連 - 中学生・高校生への調査から -
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

研究組織（研究協力者）

氏名	ローマ字氏名
----	--------